

特定非営利活動法人ネパール治水砂防技術交流会（NFAD）
日本・ネパール国交樹立50周年記念スタディツアー2006報告
（平成18年11月18日（土）～24日（金））

当交流会のツアーは2002年以来、ネパールの治安状況悪化のため延期されていましたが、今年は治安状況が改善したことから、日本とネパールの国交樹立50周年という節目の年にスタディツアーを実施することができました。

11月18日（土）午前中、タイ航空にて空路バンコクへ。その日はバンコクに一泊、翌19日（日）午後、タイ航空にてカトマンズ入りしました。今回のスタディツアーには、交流会（NFAD）の顧問である田村公平参議院議員をはじめ大井英臣理事長（DPTC 初代チーフアドバイザー）、友松靖夫前理事長（共生機構（株）取締役会長）、森事務局長（（財）砂防フロンティア整備推進機構理事長）、田村先生の地元高知県の方々など合計13名が参加しました。また現地でNFADの会員である菅沼さん、理事の石黒さんが合流されました。

20日（月）には、2002年に16名の死者行方不明者を出したマタチルタ地区の土石流発生現場および、今年8月に50周年記念の一環で開催された彫刻シンポジウムで、彫刻家の杉本準一郎氏が土石流として流下してきた石で製作した彫刻の視察を行いました。また交流会から雨量計を贈呈したシュリ・セティ・デヴィ（Shree Seti Devi）小学校を視察し、文房具の贈呈を行いました。



学校への文房具の贈呈



百葉箱と雨量計（左後方、生徒の列の後ろ）

帰路にはビシュヌ・デヴィ・シクシャ・サダン（Bishnu Devi Shiksha Sadan）小中学校にて、NFAD活動の一環である洪水・土砂災害に関する作文コンクールの実施状況を視察、文房具の寄贈を行いました。コンクール終了後のセレモニーでは生徒たちの質問に答える時間が設けられ、生徒からの今後の日ネ関係に関する質問に対し、田村先生から豊富な天然資源を持たない両国は優秀な人材が大きな資源になること、そのためには生徒皆が一生懸命勉強することが重要とのお話がありました。



作文コンクール実施の様子

午後は治水砂防局(DWIDP)を訪問、NFADネパール支部の現地スタッフと共に昼食をとり、その後、防災対策アドバイザー(Disaster Prevention Advisor)を務める武士JICA専門家によるこれまでのプロジェクト及びフォローアップ活動についてのプレゼンテーションに続き、セミナーホールにてバッタライ局長はじめ DWIDP 職員による歓迎セレモニー、記念品の交換が行われました。



DWIDP における田村先生挨拶



スタディツアー2006 参加者(DWIDP 玄関前にて)

21日(木)は午前中に、カトマンズ市の東40kmにあるドゥリケル近くのパートレケート村(Patleket VDC)で、ネパールのNGOラブグリーンネパール主催の日ネ国交50周年を記念したヒマラヤザクラ(日本の桜のルーツを言われている)の記念植樹に参加する予定でしたが、途中バクタプールの先で前日に発生した交通事故の処理に対する地元住民の不満から道路を封鎖する事態が発生し、情報が錯綜する中、安全を考慮し現地入りを断念しました。しかし、一足先に現地入りしていた日本大使館の吉野書記官(NFADメンバー、国交省より出向)に託し、記念植樹は無事行われました。NFADとしては、植樹参加費に代え、NGOに対し寄付をさせて頂きました。



田村先生のヒマラヤザクラ記念植樹プレート

引き続きバクタプールを視察し、その足でヒマラヤの展望地として名高いナガルコットに向かい、その日は現地に宿泊しました。残念ながら、曇り空のためヒマラヤの眺望には恵まれませんでした。(今年は例年の11月に比べ曇りがちで、ヒマラヤの見える日が少なかったようです。現地では、地球温暖化の影響ではないかと言われています。) 田村先生は22日(水)に、その他のメンバーは23日(木)にバンコク経由で全員無事に帰国しました。

今回のスタディツアーの期間は、日ネ国交50周年を記念してカトマンズで開催されていた“ジャパン・ウィーク”と同時期にあたり、美術展、写真展、ファッションショーなど日ネ交流のさまざまなプログラムが行われており、日本人を含めた観光客の姿も数多く見られました。

さらに、ツアー期間中の21日(火)には、政府とネパール共産党毛沢東主義派(マオイスト)による歴史的な和平協定調印が行われました。これで、11年間にわたるマオイストと政府の戦闘に終止符が打たれ、今後は国連の監視下でマオイストの武装解除手続きが開始され、2007年6月の制憲議会選挙実施に向けて進んでいくことになります。(HP上の現地メディアの記事もご参照下さい。)



デウバ前首相(左)と懇談(デウバ氏自宅にて)

調印式の数時間前、スタディツアーのメンバーのうち、田村先生、大井理事長、友松前理事長および森事務局長の4名は政府与党のNo.2であるデウバ元首相を自宅に訪問し、意見交換する機会を得ることができました。

今回のスタディツアーでは参加者のご協力により、砂防情報研究会から寄贈された雨量計2セットの他、要望のあったボールペン200本、サッカーボール・ソフトバレーボール・空気入れ各5個づつを運搬し、ネパール支部に手渡すことができました。さらに、参加者の方々からは現地の日本人関係者に対して、食料品など多くの差し入れを頂きました。武士 NFAD 支部長、吉野書記官および参加者の皆様のご協力により、スタディツアーは無事に終了しました。関係各位のご協力有難うございました。